

質問

縄文の人たちの音楽ってどんなものだったの？

(ぱぷりこさん／19歳／高知県)

答え

ご質問ありがとるん！学芸員からの答えは次のとおりだるん。

縄文時代の音楽は、自然の素材でつくられた楽器と、人びとの体を使って生み出されていたと考えられます。

縄文時代の楽器には、土鈴^{どれい}、土笛^{どぶえ}、有孔罌付土器^{ゆうこうつばつき}、箆形木製品^{どき}などがあります。有孔罌付土器や箆形木製品の使い方についてはさまざまな説がありますが、前者は太鼓、後者は琴のような弦楽器だったとする説があります。また、貝輪^{へらがたもくせいひん}(貝で作られた腕輪)もいくつか重ねて腕につけると動かすたびに音が鳴るため、楽器の一つとして使われていた可能性があります。

こうした楽器の演奏に合わせて、足踏みや手拍子をしたり、歌を歌ったりもしていたことでしょう。縄文時代の楽器は、今のようになくさんの音階を出すものではなかったと考えられるので、楽器はリズムを刻む役目が中心で、メロディーは主に声で奏でていたのかもしれません。



土鈴 (是川中居遺跡)
中に小さな砂粒が入っていて、ふると音がします。



有孔罌付土器 (松ヶ崎遺跡)
土器の口の部分に動物の皮を張って孔を使ってしばり、太鼓として使ったとする説があります。
(八戸市博物館蔵)



箆形木製品 (是川中居遺跡)
縦方向に弦を張って使ったとする説があります。

